



# 大切な乳がん検診 乳がんが増えています

女性が患うがんの中で最も多いのは乳がんであり、ここ年々増加の一途をたどっています。乳がんは40歳から50歳にかけて多く、他のがんに比べ若い年齢でがんにかかるのが特徴です。マンモグラフィ検診では視・触診だけの検診に比べ3倍近くのがん発見率があり、より早期に発見出来る有効な検診法です。また超音波検診という方法も試行されつつあります。自分のために、また家族のために乳がん検診を是非受けて頂きたいです。

増田医院 長野県医師会乳がん検診小委員会委員長

増田 裕行 院長

## 早起きは三文の徳

「早起きは三文の徳」という諺がありますが、病気に関しては「早期発見が大変お得」と言えるでしょう。世の中にはいろいろな種類のがんがあり、中には早期発見の難しいものもありますが、乳がんは早期発見が可能です。では早期発見がなされると何が得か？と言いますと①乳房の形を残す手術（乳房温存手術）が可能になります②腋の下のリンパ節を取らないようにすること（センチネルリンパ節生検）も可能となります③使うべき薬・抗がん剤、ホルモン剤などの量が少なく済みます④マンモグラフィという乳房の特殊なレントゲン写真を用いて発見されたごく早期の乳がんの場合は、その方の命を救える可能性が高まります（生存率の向上）。では早期発見のために何をすべきなのでしょう？

## 乳がん検診を受けましょう

早期発見のためには検診を受けるということが非常に大切になってきます。乳がん検診は従来「視・触診法」によってなされてきましたが、これだけでは効果は不十分とされており、現在はマンモグラフィという検査方法を利用することにより、手で触れることが出来ないような時期にがんを発見することが重要と考えられるようになってきています。佐久市では1999年に、県下で最も早くマンモグラフィ検診を始めました。皆さんご存知でしたでしょうか？これまでの10年間に非乳



知乳がんの方が何人か発見されています。また超音波という検査方法も工夫されてきていますが、

佐久市ではこの点も県下の先駆けとして取り組んでいます。

ところで先に④として「生存率の向上が得られる」ということを述べましたが、実はこのデータは外国のものであり、日本においては検診の威力がまだ十分には発揮されておりません。外国と日本で何が違うかと言うと、マンモグラフィ検診の普及率の差が指摘されています。外国では検診受診率が70〜80%になっているのに、日本では10数%に低迷しています。検診受診率を上げることが非常に大切だと言われています。

## これからの乳がん治療

乳がんを切らないで治す治療法が試みられつつあります。昨年テレビ番組でも取り上げられたためか、時に患者さんから質問があります。そのひとつに、がんの塊の中に電極を差し込み、ラジオ波という特殊なエネルギー

## マンモグラフィが撮れる医療機関

- 佐久市立国保浅間総合病院 ● 川西赤十字病院
- 佐久総合病院\* ● 増田医院\* ● 小諸厚生総合病院\*
- 御代田中央記念病院\* ● 軽井沢病院

\*良い写真が撮れると認定された施設

を用いて、乳房の中でがんを焼き尽くしてしまおうという方法があります。超音波のエネルギーを使って熱変性させる方法や、逆に凍結療法という工夫もあります。しかしこのような治療法はまだ未完成な技術であり、効果・安全性・副作用などの点でじっくり検証する必要があります。従ってこれらの治療法がこれまでの治療法の代わりになるとは言えず、現状ではこれらの方法をお勧めする訳にはいきません。しかしながら今後の夢として期待される方法であると思っています。このような治療法を可能にするためにも、乳がんがまだ小さいしこりのうちに早期発見することが必要です。ここでも合言葉は「乳がん検診」ということになるでしょう。

## がん対策基本法（健康増進法）

「がん対策基本法」という法律では、医療側には質の良い検診体制を整えることが求められ、国民には進んでがん検診を受ける義務があると謳われています。皆さんには是非現況をご理解頂いて、一人でも多くの方に検診を受けて頂きたいと願っています。

